

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：キャリアセンター	担当部局：キャリアセンター
大項目	8 学生支援（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	8.0.4 学生の進路支援は適切に行われているか。	
要素	進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施	
	キャリア支援に関する組織体制の整備	
	キャリア教育の適切性	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 文系研究科（博士課程前期課程、修士課程）修了者の就職率を77%以上とする	→就職率・・・分母は「就職希望者」ではなく、「修了者」である。具体的には(就職決定者+自営)÷(修了者-進学決定者)	C	C	C		
2. 大学院学生のみを対象とするインターンシップに毎年1名以上派遣する	→受け入れ側が選抜を行う大学院学生対象インターンシップへの派遣	C	C	A		
3. 大学院学生のみを対象としたプログラムの増加(2009年度は3件) (2013年度以降に設定が予定されている文理融合型の研究科横断的枠組みの準備として)	→大学院学生のみ対象のプログラム・・・2009年度は3件；「文系大学院生対象就職セミナー」「社会演習(インターンシップ)」「理系院生の就職活動の始め方と心構え」	B	B	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度博士課程前期課程(文系)の就職率は65.6%となり、昨年度63.2%を若干上回ったものの目標値を大きく下回っている。2010年度、2011年度の両年度ともに未把握者数は3名であり、修了者数、進学者数、資格等の受験準備等の数字はほぼ変わっていない。数字が伸びていない理由として考えられるのは、研究活動に忙しく物理的に就職活動を行う時間的余裕がないということが挙げられ、その状況下において取ることができる施策を再検証する必要があるだろう。なお、理工系を含む全体の就職率は77.5%であった。
★ 目標2	社会実習(インターンシップ)に人間福祉研究科1年生1名を採用し、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社にて2週間の実習を行った。
目標3	2011年度は、理工系学生対象の新入生キャリアガイダンスにおいて、大学院生のみを対象として4月1日に開催。「理系院生の就職活動の始め方と心構え」として148名のうち145名が参加した。また、先述した社会実習(インターンシップ)を大学院生を対象として実施した。
備考	